

# 中学校第1学年 美術科 学習指導案

期 日 平成25年10月4日(金) 第5校時  
場 所 宇土市立網田中学校 美術室  
指導者 教諭 漆島 未央

## 1 題材名

和風を味わう

～日本の伝統文様の美しさを生かした手ぬぐい制作～ (第1学年 A表現(2)(3), B鑑賞(1))

## 2 題材について

### (1) 題材観

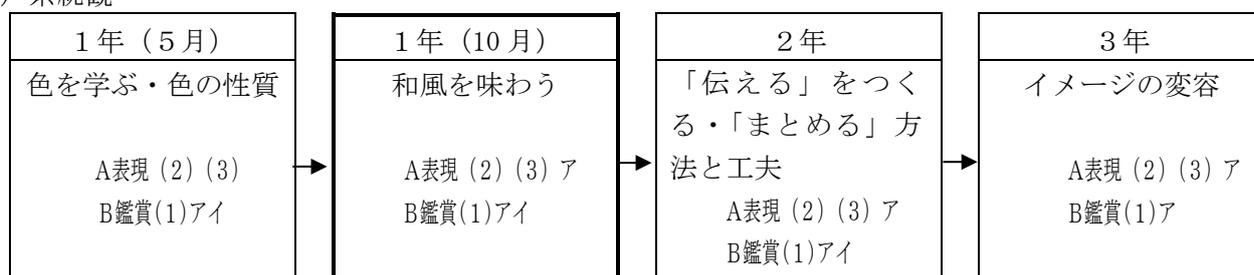
本題材は、中学校学習指導要領美術編の第1学年のA表現の項目(2)のA及び(3)のA, さらにB鑑賞の項目(1)のAとイに関連する題材である。

伝統と文化を尊重する態度の育成は、教育基本法において新たに定められた教育目標である。それを受けて学習指導要領では、美術文化についての理解を深めることが教科の目標に加えられた。本題材では、日本の伝統文様に関する学習を通して、我が国の伝統と文化のよさや美しさを感じ取り、美術文化に対する関心を高めることをねらいとしている。

手ぬぐいは、昔から日本の生活の中で使われてきたものであり、特徴的な形態と機能性がある。また、実用性ではなく芸術性において発展してきた歴史があり、装飾されている柄には、日本の伝統文様の歴史を感じることができる。

本題材は、第1次「日本の伝統文様の鑑賞」、第2次「デザインの構想を練る」、第3次「作品に表す」、第4次「互いの作品を鑑賞する」という流れで学習を進めていく。題材全体を通して、表現と鑑賞の関連を図った学習展開を試み、より豊かな表現へとつなげていきたい。

### (2) 系統観



### (3) 生徒観

本学級の生徒は男子11人、女子9人の計20人である。題材に入る前に、美術の学習への取組に関する意識調査を実施した。

「関心・意欲・態度」に関わる項目においては、「美術の時間が待ち遠しい」と答えた生徒は89%、また「完成したときの達成感がある」と答えた生徒も89%と美術の授業に対する関心や意欲はとても高い。

「発想や構想の能力」に関わる項目においては、「作品の構想を練ることが好き」と答えた生徒は68%であった。構想を練ることに対してやや苦手意識を持っている生徒がいる。

「創造的な技能」に関わる項目においては、「表現技法を工夫したりして表現できる」について、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた生徒は100%であった。また、「表現技法を工夫したりすることは楽しい」と答えた生徒は94%であった。これは、構想を十分に練ることはできていないが、表現の工夫はできているとの生徒の意識を示しているものと考えられる。

「鑑賞の能力」に関わる項目においては、「友達の作品を見るのは楽しい」と答えた生徒は84%に達していたが、「自分の作品を友達に見てもらっては楽しい」と答えた生徒はわずか47%であった。また、

鑑賞の能力に関わる項目の数値の平均が、4つの項目の中で最も低い数値を示していた。

意識調査の結果と日常の美術の授業での見取りから、美術科における生徒の全体的な傾向は、美術科の学習に対する興味・関心がとても高く、学習活動においても意欲的に取り組むことができているといえる。

鑑賞については、自分の作品を友達に見せたりすることに抵抗感を持っている生徒がいるが、友達の作品を見てみたいという生徒も多い。これは、様々な作品を鑑賞することで、より良い表現につなげていきたいという意欲の表れといえる。表現と鑑賞との関連を図った学習展開を工夫するとともに、自分の思いを語ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を充実させていく必要があると考える。

#### (4) 指導観

- 一人一人の考えをお互いに認め合える雰囲気大切に、楽しい授業展開を工夫することで、オリジナルの手ぬぐいの制作意欲の向上を図る。
- 日本の伝統文様の美しさやよさを実感させ、それを表現活動に生かすために、題材全体を通して表現と鑑賞の関連を図った学習を展開していく。
- 学習過程に「書く」「意見を述べ合う」「発表する」等の言語活動を計画的に位置付け、ワークシート等を活用しながら、その充実を図る。
- ワークシート等の活用により、表したいイメージを明確にし、表現の構想を確かなものにする。また、表現の過程においても、表したいイメージが表現できているか、表したいイメージがどのように変わったか等を確認しながら制作させる。
- ICTを活用して、生徒が主体的に文様についての情報を収集、分析する学習過程を設定し、情報活用能力の育成を図る。
- 題材の学習内容に関連した掲示物等を計画的に示し、生徒が主体的に情報を収集・分析することができるようにする。

<b>【視点1】</b> 思考力・判断力・表現力等の育成	<b>【視点2】</b> 学習評価と指導の改善	<b>【視点3】</b> 情報活用能力の育成
<p>【視点1】 本題材では、身の周りにある日本の文化に目を向けさせ、伝統的な文様表現の特徴や美しさに対する見方や考え方を共有することで、新たな表現の試みや工夫ができるように学習展開を工夫した。また、表現と鑑賞の関連を図った学習展開を試み、言語活動の充実を図りながら思考力・判断力・表現力等の育成を図っていく。</p>	<p>【視点2】 本題材では、日本の伝統的な装飾や表現様式について、その特徴を読み取り、自己の表現に生かす活動を通して、生徒の思考の過程を評価する授業を目指す。その際、ワークシートや観察、対話など、学習場面に応じて評価方法を工夫し、生徒の思考・判断の過程を見取り、学習評価と指導の改善を図っていく。</p>	<p>【視点3】 本題材では、日本の伝統的な装飾や表現様式に関する情報を、絵や写真、実物などで示すことで、主体的な情報活用を促す授業を目指す。また、ICTを活用して、生徒が文様についての情報を主体的に収集、分析して活用を図る学習過程を設定し、情報活用能力の育成を図っていく。</p>

### 3 題材の目標と評価規準

題材の目標	(1) 日本の伝統的な装飾や表現様式について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。 (2) 日本の伝統的な装飾や表現様式について、その特徴を読み取り、構成や装飾を考えて表現することができる。 (3) 動物や植物などのモチーフから、造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解することができる。
-------	--

関心・意欲・態度	○日本の伝統的な文様表現の美しさや表現方法について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。
発想・構想の能力	○手ぬぐいの機能や特性、日本の伝統文様の美しさやよさなどを基に、単純化や平面化、連続性、組み合わせ等を工夫して、独自の表現の構想を練っている。
創造的な技能	○伝えたいイメージを効果的に表すために、材料や用具の特性を生かし、工夫して表現している。
鑑賞の能力	○日本の伝統的な装飾や表現様式の工夫から、そのよさや美しさ、生活を美しく豊かにする美術の働きなどを感じ取り、自分の思いや考えを持って味わっている。

#### 4 指導・評価の計画(6時間取扱い 本時2/6)

次時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【三つの視点から】	評価の観点(評価方法) B基準
1 1	「日本の伝統文様の鑑賞」 ○インターネットを活用し、日本の伝統的な文様の特徴についての情報を収集し、分析する。	・ワークシートを基に、日本の伝統的な表現様式の特徴の視点から鑑賞させる。 ・意見交換を行い、見方・感じ方を広げさせる。 【視点3】インターネットを活用して情報を収集、分析する学習活動を設定する。	<b>関心・意欲・態度</b> (ワークシート、観察) ・日本の伝統的な装飾や表現様式のよさや美しさ、生活を美しく豊かにする美術の働きなどを感じ取り、ワークシートに記録し、意見を述べている。
2 1本時	「デザインの構想を練る」 ○単純化、組み合わせ、連続性などを意識して、オリジナル手ぬぐいの構想を練り、「商品企画書」を作成する。	・日本の伝統的な表現様式から表したいテーマを明確に決めさせる。 ・日本の伝統文様の特徴という視点を基に、意見を交換し合うなどしてより美しい文様のデザインが構成できるようする。 【視点1】発想したデザインを互いに鑑賞し合うことで、表現の工夫改善を促す。 【視点2】商品企画書を作成させることで、デザインの根拠と理由を明確にする。	<b>発想・構想の能力</b> (ワークシート・観察) ・日本の伝統文様の特徴を理解し、形や図柄などの組み合わせを工夫するなどして、構成や装飾の構想を練っている。
3 3	「作品に表す」 ○アイデアをゴム版に転写し、ゴム版を制作する。 ○試し摺りを行うなどして改善を図り、ゴム版を完成させる。 ○布に摺り、オリジナル手ぬぐいを完成させる。	・彫刻刀、カッターの使い方など安全面を徹底する。 ・道具の特徴やゴムの特性を考えながら彫らせる。 ・それぞれの生徒の表現意図を確認し、助言、資料の提示行っていく。 【視点1】制作した版を鑑賞し合うことで、表現の工夫改善を促す。 【視点2】試し刷りなどで彫の表現を確認させながら、表現の工夫改善を促す。	<b>創造的な技能</b> (作品・ワークシート・観察) ・制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現している。 <b>関心・意欲・態度</b> (作品・ワークシート・観察) ・イメージを表現しようと用具の特性を生かして制作しようとしている。
4 1	「互いの作品を鑑賞する」 ○友達作品の発想や表現の工夫などを感じ取り、伝え合う。 ○日本の伝統文化のよさや美しさについてまとめる。	・友達作品を鑑賞して、発想のよさや表現の工夫などを感じ取り、自分の見方を深めることができるように、ワークシートを活用させる。 【視点1】完成作品を鑑賞し合う学習活動を設定し、自分や友達表現のよさに気付かせる。	<b>鑑賞の能力</b> (ワークシート・発表) ・自分なりの感じ方で、友人作品のよさや美しさなどをとらえ、具体的にワークシートに記録し、意見を述べている。

5 本時の学習

(1) 目標

○日本の伝統的な装飾や表現様式から感じるイメージを基に、単純化や組み合わせ、連続性などの構成を考え、表現の構想を練ることができるようにする。 (発想や構想の能力)

(2) 評価基準

「発想・構想の能力」(ワークシート・観察)

(B基準) 日本の伝統的な装飾や表現様式の特徴をつかみ、図や言葉を用いて構想を練っている。

(A基準) 日本の伝統的な装飾や表現様式の特徴をつかみ、単純化や平面化、組み合わせや連続性などの構成を工夫しながら、図や言葉を用いて構想を練っている。

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 10分	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。	○前時の鑑賞の授業で学んだことを復習しましょう。	○手ぬぐいを数点提示し、どのような表現の様式の特徴があるかを確認する。	参考資料 (手ぬぐい・代表的な江戸文様の資料)
	2 本時の目標を確認する。	○手ぬぐいのデザインについて考えましょう。	○参考資料を提示し、日本の伝統的な表現の様式化の方法について説明する。 (単純化・組み合わせ・連続性) ○単純化・組み合わせ・連続性の例を挙げ、簡単に説明する。	
展開 35分	日本の伝統的な文様の特徴を生かしたオリジナル手ぬぐいのデザインを考えよう。			
	3 手ぬぐいのデザインのアイデアスケッチを行う。	○日本の伝統的な文様表現の特徴を生かしたデザインを考え、描いてみましょう。 ○手ぬぐいのデザインを考えて、商品企画書を作成しましょう。	○商品企画書の作成を目標にデザインのアイディアを練らせる。 【視点2】商品企画書を作成させ、アイディアの根拠と理由を明確にする。 ○机間巡視を行いながら、適宜生徒への助言を行う。 ○ワークシートに記入したテーマや企画書のキャッチコピー、セールスポイントを意識させる。	ワークシート 商品企画書
	4 相互鑑賞し、友達の作品の良さを感じ取る。	○自分の作品のテーマや工夫した点、作品への思いなどを説明し、また、友達の作品から発想や構想のよさ、表現の工夫等を感じ取りましょう。 ○友達に作品の発想や表現の工夫などを紹介しましょう。	【視点1】発想したデザインを相互に鑑賞し合うことで、表現の工夫改善を促す。 ○本時の目標を達成しつつある作品を数点紹介し、目標を再度確認する。 ○アイディアスケッチを分かりやすく提示するためにICTを活用する。	実物投影機
	<p><b>【言語活動】</b> アイディアスケッチを基に、日本の伝統的な文様の特徴を生かしたデザインについて話し合うことを通して、新たな表現の試みや工夫などにつなげるようにする。</p>		<p><b>発想・構想の能力 (ワークシート・観察)</b> ・日本の伝統文様の特徴を理解し、形や図柄などの組み合わせを簡潔にしたり総合化したりするなどして、構成や装飾を考え表現の構想を練っている。</p>	

整理 5分	<p>5 友だちの作品を参考にしながら、工夫し表現する。</p> <p>6 アイディアスケッチのデザインを紹介し合う。</p> <p>7 学習のまとめ。 本題材のまとめを聞き学習を振り返ってワークシートで自己評価を行う。</p>	<p>○友達のアイディアを参考にしながら、さらに構想を練りましょう。</p> <p>○考えたデザインをクラスのみんなに紹介しましょう。</p> <p>○これまでの学習を振り返って、自己評価をしましょう。</p>	<p>〈B基準に達しない生徒への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料を基に単純化など様式化の視点を提示し、対話を通して図や言葉を用いて表現させる。</li> </ul> <p>○友達の発想のよさや表現の工夫などについての気付きは、ワークシートに記録させる。</p>	<p>実物掲載</p> <p>ワークシート</p>
----------	--	---	---	---------------------------